

総合原価計算編

1

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

素材 L は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

包装材 C は終点投入…月末仕掛品の計算不要

2 評価額のない正常仕損は「そのままパターン」…仕損を「そのまま」残して、当月投入を計算

(1) @4点×3=12点

総合原価計算表

(単位：円)

	L	C	加工費	合計
月初仕掛品	(280,000)	0	425,700	705,700
当月投入	(1,600,000)	372,800	4,174,500	6,147,300
合計	(1,880,000)	372,800	4,600,200	(6,853,000)
月末仕掛品	(200,000)①	(0)②	(253,000)③	(453,000)
完成品	(1,680,000)	(372,800)	(4,347,200)	(6,400,000)

① 素材 L は「数量」で月末仕掛品を計算します。

素材 L (始点投入)

月初	完成
280,000 円 150	800
当投 1,600,000 円 800	仕損 50
	月末 ① 100

→ 「先入先出法」なので、当投 1,600,000 円 × 月末 100 ÷ 当投 800 = 200,000 円

② 上記参照

③ 加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

加工費

月初 425,700 円 (75)	完成  (800)
当投 4,174,500 円 (825)	仕損  (50)
	月末  ③ (50)

→ 「先入先出法」なので、当投 4,174,500 円 × 月末 (50) ÷ 当投 (825) = 253,000 円

(2) @4点×2=8点

1個あたりの単位原価 = ④ 円

1箱あたりの単位原価 = ⑤ 円

④ 完成品総合原価 6,400,000 円 ÷ 800 個 = @8,000 円/個

⑤ 問題文「5個単位で箱詰め」より、@8,000 円/個 × 5 個 = @40,000 円/箱

2

## 【総合原価計算の論点】

## 1 材料の投入

A 原料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

B 原料は 60%時点で投入…「数量」で月末仕掛品を計算（ただし、通過点を確認）

## 2 評価額のない正常仕損は「そのままパターン」…仕損を「そのまま」残して、当月投入を計算

問1 @4点×4=16点

総合原価計算表

(単位: 円)

	A 原料費	B 原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	240,000	0	160,000	400,000
当月製造費用	3,540,000	330,000	4,800,000	8,670,000
合計	3,780,000	330,000	4,960,000	9,070,000
差引: 月末仕掛品原価	(120,000)①	(0)②	(80,000)③	(200,000)
完成品総合原価	(3,660,000)	(330,000)	(4,880,000)	(8,870,000)

① A 原料は「数量」で月末仕掛品を計算します。

## A 原料 (始点投入)

月初 240,000 円 2,000	完成 30,000
当投 3,540,000 円 29,500	仕損 500
	月末 ① 1,000

→ 「先入先出法」なので、当投 3,540,000 円 × 月末 1,000 ÷ 当投 29,500 = 120,000 円

② 問題文「B 原料費はすべて完成品に負担させる」という記載から、「0」と判断しても間違っていない。しかし、今後、計算させる可能性もありますので、念のため BOX の書き方を説明しておきます。

B 原料は加工進捗度 60%時点で投入されますので、通過していれば「数量」を記載し、通過していなければ「0」を以下のように BOX へ記入します。

B 原料（60%時点投入）

月初（通過×） 0 円 0	完成（通過○） 30,000
当投（差額） <b>330,000 円</b> 30,500	仕損（通過○） <b>500</b>
	月末（通過×） ② 0

仮に、月末仕掛品の数量が 2,500 個、加工進捗度が 80%の場合、以下のように月末仕掛品を求める必要があります。

B 原料（60%時点投入）

月初（通過×） 0 円 0	完成（通過○） 30,000
当投 <b>330,000 円</b> 33,000	仕損（通過○） <b>500</b>
	月末（通過○） ★ 2,500

$330,000 \text{ 円} \times \text{月末仕掛品 } 2,500 \div \text{当月投入 } 33,000 = 25,000 \text{ 円} \star$

- ③ 加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

加工費

月初 160,000 円 (1,000)	完成  (30,000)
当投 4,800,000 円 (30,000)	仕損  (500)
	月末 (通過×) ③ (500)

→ 「先入先出法」なので、当投 4,800,000 円 × 月末 (500) ÷ 当投 (30,000) = 80,000 円

問2 4点

完成品総合原価 = 8,840,000④ 円

- ④ 仕損品の評価額 @60 円/kg × 500kg = 30,000 円

今回は「そのままパターン」なので、完成品を求めるときの1回だけ控除（マイナス）します。

よって、9,070,000 円（月初仕掛品原価と当月製造費用の合計）－月末仕掛品 200,000 円－仕損品評価額 30,000 円 = 8,840,000 円

※ 3との違いをしっかりと認識してください。

3

## 【総合原価計算の論点】

## 1 材料の投入

原料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

## 2 評価額のない正常仕損は「×パターン」…仕損を「×」して、当月投入を計算

(1) @5点×3=15点

総合原価計算表

(単位：円)

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	349,600	402,100	751,700
当月製造費用	3,162,400	7,519,900	10,682,300
合計	3,512,000	7,922,000	11,434,000
差引：月末仕掛品原価	236,000①	278,000②	514,000
完成品総合原価	3,276,000	7,644,000	10,920,000

① 問題文「正常減損は工程の途中で発生…度外視法による場合」より、×パターンで処理します。つまり、仕損 550 を×して、当月投入分 26,800 を貸借差額で求めます。

A原料（始点投入）

月初 349,600円 2,500	完成  27,300
当投 3,162,400円 26,800	仕損  550
	月末 ① 2,000

→ 「先入先出法」なので、当投 3,162,400円 × 月末 2,000 ÷ 当投 26,800 = 236,000円

②

加工費

月初 402,100 円 (1,250)	完成  (27,300)
当投 <b>7,519,900 円</b> (27,050)	仕損  ( ? )
	月末  ② (1,000)

→ 「先入先出法」なので、当投 7,519,900 円 × 月末 (1,000) ÷ 当投 27,050 = 278,000 円

(2) 5点

完成品総合原価 = 10,870,400③ 円

(1) とは違い、仕損品の評価額 53,600 円が追加されました。この仕損品評価額を、完成品を計算する前の 1 回だけか、月末仕掛品を計算する前と完成品を計算するときの 2 回かを判断します。その判断は「そのままパターン」か「×パターン」か、です。今回は「×パターン」です。

A 原料 (始点投入)

月初 349,600 円 2,500	完成 3,226,400 円 27,300
当投 <b>3,162,400 円</b> 26,800	仕損 53,600 円 550
	月末 232,000 円 2,000

→ 「先入先出法」なので、(当投 3,162,400 円 - 評価額 53,600 円) × 月末 2,000 ÷ 当投 26,800 = 232,000 円

→ 349,600 円 + 3,162,400 円 - 232,000 円 - 53,600 円 = 3,226,400 円

→ 加工費に変化はないので、3,226,400 円 (原料費) + 7,644,000 円 (加工費) = 10,870,400 円

4 問1 @2点×2=4点 その他は@4点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

原料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 評価額のない正常仕損は「×パターン」…仕損を「×」して、当月投入を計算

問1 等価比率計算表

等級製品	重量	等価係数	完成品量	積数	等価比率
X	600g	3	12,000 枚	36,000①枚	90③ %
Y	200g	1	4,000 枚	4,000②枚	10 %
					100 %

① 等価係数 3 × 完成品量 12,000 枚 = 36,000 枚

② 等価係数 1 × 完成品量 4,000 枚 = 4,000 枚

③ ① ÷ (① + ②) = 0.9 (90%)

問2 当月の月末仕掛品原価 =  円

問3 当月の完成品総合原価 =  円

④・⑤

原料 (始点投入)

月初 350,000 円 2,000	完成 3,150,000 円⑤-1 16,000
当投 3,600,000 円 18,000	仕損 2,000
	月末 800,000 円④-1 4,000

→ 「先入先出法」なので、当投 3,600,000 円 × 月末 (4,000) ÷ 当投 18,000 = 800,000 円

→ 350,000 円 + 3,600,000 円 - 800,000 円 = 3,150,000 円

加工費

月初 450,000 円 (1,000)	完成 6,450,000 円⑤-2 (16,000)
当投 6,800,000 円 (17,000)	仕損 ( ? )
	月末 800,000 円④-2 (2,000)

- 「先入先出法」なので、当投 6,800,000 円 × 月末 (2,000) ÷ 当投 (17,000) = 800,000 円  
 → 450,000 円 + 6,800,000 円 - 800,000 円 = 6,450,000 円

問 4 等級製品 X の完成品単位原価 =  円/枚

問 5 等級製品 Y の完成品単位原価 =  円/枚

⑥・⑦

等級別総合原価計算表

等級別製品	重量	等価係数	完成品量	積数	等級別製造原価	製品単価
X	600g	3	12,000 枚	36,000 枚	8,640,000	( ¥ )
Y	200g	1	4,000 枚	4,000 枚	960,000	( ¥ )
				40,000 枚	9,600,000⑤	

- 9,600,000 円 × 36,000 枚 ÷ 40,000 枚 = 8,640,000 円 (9,600,000 円 × 90%)  
 → 9,600,000 円 × 4,000 枚 ÷ 40,000 枚 = 960,000 円 (9,600,000 円 × 10%)  
 → 8,640,000 円 ÷ 12,000 枚 = @720 円/枚  
 → 960,000 円 ÷ 4,000 枚 = @240 円/枚

5 @4点×5=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

直接材料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 評価額のない正常仕損は「そのままパターン」…仕損を「そのまま」残して、当月投入を計算

月末仕掛品原価 =  ① 円

完成品総合原価 =  ② 円

①・② 直接材料は「数量」で月末仕掛品を計算します。

A 原料 (始点投入)

月初 280,000 円 800	完成 2,760,000 円②-1 12,000
当投 2,560,000 円 12,800	仕損 1,200
	月末 80,000 円①-1 400

→ 「先入先出法」なので、当投 2,560,000 円 × 月末 400 ÷ 当投 12,800 = 80,000 円

→ 280,000 円 + 2,560,000 円 - 80,000 円 = 2,760,000 円

加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

加工費

月初 90,000 円 (200)	完成 3,990,000 円②-2 (12,000)
当投 3,960,000 円 (13,200)	仕損 (1,200)
	月末 60,000 円①-2 (200)

→ 「先入先出法」なので、当投 3,960,000 円 × 月末 (200) ÷ 当投 (13,200) = 60,000 円

→ 90,000 円 + 3,960,000 円 - 60,000 円 = 3,990,000 円

等級製品 L の完成品総合原価 =  円

等級製品 M の完成品総合原価 =  円

等級製品 S の完成品総合原価 =  円

③～⑤

等級別総合原価計算表

等級別製品	重量	等価係数	完成品量	積数	等級別製造原価	製品単価
L	20kg	1	8,000 個	8,000	3,000,000③	¥ 375
M	40kg	2	3,000 個	6,000	2,250,000④	¥ 750
S	80kg	4	1,000 個	4,000	1,500,000⑤	¥ 1,500
				18,000	6,750,000②	

- $6,750,000 \text{ 円} \times 8,000 \div 18,000 = 3,000,000 \text{ 円}$
- $6,750,000 \text{ 円} \times 6,000 \div 18,000 = 2,250,000 \text{ 円}$
- $6,750,000 \text{ 円} \times 4,000 \div 18,000 = 1,500,000 \text{ 円}$

6 @4点×5=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

直接材料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 仕損・減損なし

※ 月末仕掛品と完成品の原価だけでなく、売上原価の計算が必要

(1) 月末仕掛品原価 = 984,500① 円

X製品の完成品単位原価 = 2,220② 円/個

① 材料費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

原料費（始点投入）

月初 —	完成 11,630,000 円 20,000
当投 12,211,500 円 21,000	月末 581,500 円①-1 1,000

→ 当投 12,211,500 円 × 月末 1,000 ÷ 当投 21,000 = 581,500 円

※ 月末仕掛品の計算について、「先入先出法」または「平均法」の指示はないが、月初仕掛品がないので、「先入先出法」のように求めます。

→ 12,211,500 円 - 581,500 円 = 11,630,000 円

加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

第1工程: 加工費

月初 —	完成 16,120,000 円 (20,000)
当投 16,523,000 円 (20,500)	月末 403,000 円①-2 (500)

→ 当投 16,523,000 円 × 月末 (500) ÷ 当投 (20,500) = 403,000 円

※ 資料5「加工費配賦差異 224,000 円（借方差異）」より、加工費の実際発生額は 16,747,000 円です。資料2が当月製造費用ではなく、「当月の実際原価」の場合は 16,523,000 円 - 224,000 円で当月製造費用を求めます。ミスリードをしないように注意しましょう。

→ 16,523,000 円 - 403,000 円 = 16,120,000 円

→ 11,630,000 円 + 16,120,000 円 = 27,750,000 円（完成品総合原価）

②

等級別総合原価計算表

等級別製品	?	等価係数	完成品量	積数	等級別製造原価	製品単価
X	?	1	3,000 個	3,000	6,660,000	¥2,220②
Y	?	0.7	5,000 個	3,500	7,770,000	¥1,554
Z	?	0.5	12,000 個	6,000	13,320,000	¥1,110
				12,500	27,750,000	

→ 27,750,000 円 × 3,000 ÷ 12,500 = 6,660,000 円

→ 6,660,000 円 ÷ 3,000 個 = @2,220 円/個

(2)

損益計算書 (単位：円)

I 売上高	.....		(37,660,000③)
II 売上原価			
1 月初製品棚卸高	.....	2,700,000	
2 当月製品製造原価	.....	(27,750,000)	
合計	.....	(30,450,000)	
3 月末製品棚卸高	.....	3,434,000	
差引		(27,016,000)	
4 原価差異		224,000	(27,240,000④)
売上総利益	.....		(10,420,000)
III 販売費および一般管理費	.....		6,654,000
営業利益	.....		(3,766,000)

③ 2,500 個 × @3,000 円/個 + 5,000 個 × @2,000 円/個 + 12,600 個 × @1,600 円/個 = 37,660,000 円

④ 27,016,000 円 + 224,000 円 = 27,240,000 円

※ 加工費配賦差異は 224,000 円の不利差異なので、売上原価にプラスします。

7 @4点×5=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

原料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 評価額のない正常仕損 (J製品) は「×パターン」…仕損を「×」して、当月投入を計算

問1

組別総合原価計算表

(単位: 円)

	K 製品		J 製品	
	原料費	加工費	原料費	加工費
月初仕掛品原価	80,000	32,250	315,000	97,500
当月製造費用	1,600,000	(1,023,750①)	3,097,500	(1,820,000②)
合計	(1,680,000)	(1,056,000)	(3,412,500)	(1,917,500)
月末仕掛品原価	(160,000③)	(52,800④)	(525,000⑤)	(130,000⑥)
完成品総合原価	(1,520,000)	(1,003,200)	(2,887,500)	(1,787,500)

まず、組別総合原価計算特有の論点である、「加工費の配賦」を行います。今回は実際配賦ではなく、予定配賦なので、予定配賦率を求めます。 → 40,950,000円 ÷ 9,000時間 = @4,550円/時間

- ① @4,550円/時間 × 225時間 = 1,023,750円
- ② @4,550円/時間 × 400時間 = 1,820,000円
- ③ X製品の原料費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

X製品: 原料費 (始点投入)

月初 80,000円 50	完成 950
当投 1,600,000円 1,000	月末 ③ 100

→ 「平均法」なので、合計金額 1,680,000円 × 月末 100 ÷ 合計数量 1,050 = 160,000円

- ④ X製品の加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

X製品: 加工費

月初 32,250円 (25)	完成 (950)
当投 1,023,750円 (975)	月末 ④ (50)

→ 「平均法」なので、合計金額 1,056,000 円 × 月末 (50) ÷ 合計換算量 (1,000) = 52,800 円

⑤ 問題文「正常減損は工程の途中で発生…度外視法による場合」より、×パターンで処理します。つまり、減損を×して、当月投入分 1,475 を差額で求めます。

原料費 (始点投入)

月初 315,000 円 150	完成  1,375
当投 3,097,500 円 1,475	減損  100
	月末 ③-1 250

→ 「平均法」なので、合計金額 3,412,500 円 × 月末 250 ÷ 合計数量 1,625 = 525,000 円

⑥

加工費

月初 97,500 円 (75)	完成  (1,375)
当投 1,820,000 円 (1,400)	減損  (?)
	月末 ③-1 (100)

→ 「平均法」なので、合計金額 1,917,500 円 × 月末 (100) ÷ 合計換算量 (1,475) = 130,000 円

問 2

3,400<sup>⑦</sup> 円/kg

⑦ (2,887,500 円 + 1,787,500 円) ÷ 1,375kg = @3,400 円/kg

8 @2点×10=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

直接材料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 仕損・減損なし

※ 仕掛品勘定の作成に注意

組別総合原価計算

	L 製品		C 製品	
	原料費	加工費	原料費	加工費
月初仕掛品原価	205,000	( 445,000 <sup>①</sup> )	—	—
当月製造費用	848,000	( 2,800,000 <sup>②</sup> )	1,908,000	( 1,200,000 <sup>③</sup> )
合計	1,053,000	( 3,245,000 )	1,908,000	( 1,200,000 )
月末仕掛品原価	( 318,000 <sup>④</sup> )	( 480,000 <sup>⑤</sup> )	—	—
完成品総合原価	( 735,000 )	( 2,765,000 )	1,908,000	( 1,200,000 )

① 総合原価計算では、原料費以外は全て加工費です。

② 組別総合原価計算特有の論点である、「製造間接費の配賦」を行います。今回は予定配賦ではなく、直接労務費を基準とした実際配賦です。

→  $2,400,000 \text{ 円} \times 1,120,000 \text{ 円} \div 1,600,000 \text{ 円} = 1,680,000 \text{ 円}$  (L 製品)

→  $2,400,000 \text{ 円} \times 480,000 \text{ 円} \div 1,600,000 \text{ 円} = 720,000 \text{ 円}$  (C 製品)

→  $1,120,000 \text{ 円} + 1,680,000 \text{ 円} = 2,800,000 \text{ 円}$

③  $480,000 \text{ 円} + 720,000 \text{ 円} = 1,200,000 \text{ 円}$

④ 原料費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

L 製品: 原料費 (始点投入)

月初	完成
205,000 円	
100	350
当投	月末
848,000 円	④
400	150

→ 「先入先出法」なので、 $\text{当投 } 848,000 \text{ 円} \times \text{月末 } 150 \div \text{当投 } 400 = 318,000 \text{ 円}$

⑤ 加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

L 製品: 加工費

月初 445,000 円 (60)	完成  (350)
当投 <b>2,800,000 円</b> (350)	月末 ⑤ (60)

→ 「先入先出法」なので、当投 **2,800,000 円** × 月末 (60) ÷ 当投 (350) = 480,000 円

仕 掛 品		(単位：円)	
月初有高 ( 650,000⑥ )	L 製品 ( 3,500,000⑦ )		
原料費 ( 2,756,000 )	C 製品 ( 3,108,000⑧ )		
直接労務費 ( 1,600,000 )	月末有高 ( 798,000⑨ )		
製造間接費 2,400,000			
( 7,406,000 )		( 7,406,000 )	

組別総合原価計算表または資料2原価データから読み取ります。

⑥ 205,000 円 + 445,000 円 = 650,000 円

⑦ 735,000 円 + 2,765,000 円 = 3,500,000 円

⑧ 1,908,000 円 + 1,200,000 円 = 3,108,000 円

⑨ 318,000 円 + 480,000 円 = 798,000 円 (L 製品の月末仕掛品のみ)

9 @4点×5=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

直接材料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 仕損・減損なし

※ 月末仕掛品と完成品の原価だけでなく、売上原価の計算が必要

→ 生産データ（仕掛品）と販売データ（製品）を区別しましょう（完成品は両方とも）。

組別総合原価計算表

(単位：円)

	B 製品		P 製品	
	直接材料費	加工費	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	902,000	258,800	—	—
当月製造費用	4,740,000	3,402,000①	3,090,000	1,848,000②
合計	5,642,000	3,660,800	3,090,000	1,848,000
月末仕掛品原価	1,092,000③	460,800④	—	—
完成品総合原価	4,550,000	3,200,000	3,090,000	1,848,000

組別総合原価計算特有の論点である、「加工費の配賦」を行います。今回は予定配賦ではなく、機械作業時間を基準とした実際配賦です。

- ①  $5,250,000 \text{ 円} \times 810 \text{ 時間} \div (810 \text{ 時間} + 440 \text{ 時間}) = 3,402,000 \text{ 円}$  (B 製品)
- ②  $5,250,000 \text{ 円} \times 440 \text{ 時間} \div (810 \text{ 時間} + 440 \text{ 時間}) = 1,848,000 \text{ 円}$  (P 製品)
- ③ B 製品の直接材料費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

B 製品: 直接材料費 (始点投入)

月初 902,000 円 1,000	完成 5,000
当投 4,740,000 円 5,200	月末 ③ 1,200

→ 「平均法」なので、合計金額 5,642,000 円 × 月末 1,200 ÷ 合計数量 6,200 = 1,092,000 円

- ④ B 製品の加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

B 製品: 加工費

月初 258,800 円 (400)	完成 (5,000)
当投 3,402,000 円 (5,320)	月末 ④ (720)

→ 「平均法」なので、合計金額 3,660,800 円 × 月末 (720) ÷ 合計換算量 (5,720) = 460,800 円

月次損益計算書		(単位：円)
I 売上高		15,040,000
II 売上原価		
1. 月初製品棚卸高	(1,840,000⑤)	
2. 当月製品製造原価	(12,688,000⑥)	
合計	(14,528,000 )	
3. 月末製品棚卸高	(2,382,000⑦)	(12,146,000⑧)
売上総利益		(2,894,000)

⑤ 1,298,000 円 + 542,000 円 = 1,840,000

⑥ B (4,550,000 円 + 3,200,000 円) + P (3,090,000 円 + 1,848,000 円) = 12,688,000 円

⑦

B 製品 (販売データ)

月初	売上原価
1,298,000 円	7,488,000 円
800 個	4,800 個
当完	月末
7,750,000 円	1,560,000 円
5,000 個	1,000 個

→ (1,298,000 円 + 7,750,000 円) ÷ (800 個 + 5,000 個) = 平@1,560 円/個

→ 4,800 個 × 平@1,560 円/個 = 7,488,000 円

→ 1,298,000 円 + 7,750,000 円 - 7,488,000 円 = 1,560,000 円 (1,000 個 × 平@1,560 円/個でも可)

P 製品 (販売データ)

月初	売上原価
542,000 円	4,658,000 円
400 個	3,400 個
当完	月末
4,938,000 円	822,000 円
3,600 個	600 個

→ (542,000 円 + 4,938,000 円) ÷ (400 個 + 3,600 個) = 平@1,370 円/個

→ 3,400 個 × 平@1,370 円/個 = 4,658,000 円

→ 542,000 円 + 4,938,000 円 - 4,658,000 円 = 822,000 円 (600 個 × 平@1,370 円/個でも可)

もし、製品の払出単価の計算方法が「先入先出法」だった場合…

B 製品

売上原価 1,298,000 円 + 4,000 個 × @1,550 円/個 (7,750,000 円 ÷ 5,000 個) = 7,498,000 円

期末製品 1,298,000 円 + 7,750,000 円 - 7,498,000 円 = 1,550,000 円

P 製品も同じように求めましょう。

10 @2点×10=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

直接材料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

2 仕損・減損なし

※ 工程別総合原価計算特有の論点「半製品」がないかを確認しましょう。(今回はナシ)

仕 掛 品 - 第1工程		(単位：千円)	
月初有高：		次工程振替高	
原料費	100,000	原料費	(4,018,000②)
加工費	26,090	加工費	(2,352,000④)
小計	126,090	小計	(6,370,000★)
当月製造費用：		月末有高	
原料費	4,000,000	原料費	(82,000①)
加工費	2,349,910	加工費	(24,000③)
小計	6,349,910	小計	(106,000)
合計	6,476,000	合計	(6,476,000)

① 第1工程の原料費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

第1工程: 原料費 (始点投入)

月初 100,000円 50	完成 ② 1,960
当投 4,000,000円 1,950	月末 ① 40

→ 「平均法」なので、合計金額 4,100,000円 × 月末 40 ÷ 合計数量 2,000 = 82,000円

② 100,000円 + 4,000,000円 - 82,000円 = 4,018,000円

③ 第1工程の加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

第1工程: 加工費

月初 26,090円 (25)	完成 ④ (1,960)
当投 2,349,910円 (1,955)	月末 ③ (20)

→ 「平均法」なので、合計金額 2,376,000 円 × 月末 (20) ÷ 合計換算量 (1,980) = 24,000 円

④ 26,090 円 + 2,349,910 円 - 24,000 円 = 2,352,000 円

仕 掛 品 - 第 2 工程

(単位：千円)

月初有高：		当月完成高	
前工程費	326,000	前工程費	(6,501,000⑦)
加工費	99,000	加工費	(3,999,000⑧)
小計	425,000	小計	(10,500,000)
当月製造費用：		月末有高	
前工程費	(6,370,000⑤)	前工程費	(195,000⑥)
加工費	3,940,000	加工費	(40,000⑧)
小計	(10,310,000)	小計	(235,000)
合計	(10,735,000)	合計	(10,735,000)

⑤ すべての第 1 工程完成品★が第 2 工程へ投入されています。

⑥ 前工程費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

第 2 工程: 前工程費 (始点投入)

月初	完成
326,000 円	⑦
100	2,000
当投	月末
6,370,000 円	⑥
1,960	60

→ 「先入先出法」なので、当投 6,370,000 円 × 月末 60 ÷ 当投 1,960 = 195,000 円

⑦ 326,000 円 + 6,370,000 円 - 195,000 円 = 6,501,000 円

⑧ 加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

第 2 工程: 加工費

月初	完成
99,000 円	⑨
(50)	(2,000)
当投	月末
3,940,000 円	⑧
(1,970)	(20)

→ 「先入先出法」なので、当投 3,940,000 円 × 月末 (20) ÷ 当投 (1,970) = 40,000 円

⑨ 99,000 円 + 3,940,000 円 - 40,000 円 = 3,999,000 円

## 【総合原価計算の論点】

## 1 材料の投入

直接材料は始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

## 2 仕損・減損なし

※ 工程別総合原価計算特有の論点「半製品」がないかを確認しましょう。(今回はアリ)

@ 3点×4 = 12点

総合原価計算表

	第 1 工 程			第 2 工 程		
	数量	原料費	加工費	数量	前工程費	加工費
月初仕掛品	200kg	98,000 円	29,060 円	100kg	73,200 円	10,400 円
当月投入	1,800	918,000	504,060	1,500	(1,170,000③)	328,560
合 計	2,000kg	(1,016,000)円	(533,120)円	1,600kg	(1,243,200)円	(338,960)円
月末仕掛品	120	(60,960①)	(21,760②)	160	(124,320④)	(17,840⑤)
完 成 品	1,880kg	(955,040)円	(511,360)円	1,440kg	(1,118,880)円	(321,120)円

① 第1工程の原料費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

## 第1工程: 原料費 (始点投入)

月初 98,000 円 200	完成
当投 918,000 円 1,800	月末 ① 120

→ 「平均法」なので、合計金額 1,016,000 円×月末 120÷合計数量 2,000 = 60,960 円

② 第1工程の加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

## 第1工程: 加工費

月初 29,060 円 (100)	完成
当投 504,060 円 (1,860)	月末 ② (80)

→ 「平均法」なので、合計金額 533,120 円×月末 (80) ÷合計換算量 (1,960) = 21,760 円

③ 第1工程完成品 1,880kgのうち、第2工程へ投入されたのは 1,500kg で、残りの 380kg は製品 T (半製品) として倉庫に保管されている。

→  $(955,040 \text{ 円} + 511,360 \text{ 円}) \div 1,880\text{kg} = @780 \text{ 円/kg}$

→  $@780 \text{ 円/kg} \times 1,500\text{kg} = 1,170,000 \text{ 円}$

④ 第2工程の前工程費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

第2工程: 前工程費 (始点投入)

月初 73,200 円 100	完成 1,440
当投 1,170,000 円 1,500	月末 ④ 160

→ 「平均法」なので、 $\text{合計金額 } 1,243,200 \text{ 円} \times \text{月末 } 160 \div \text{合計数量 } 1,600 = 124,320 \text{ 円}$

⑤ 第2工程の加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

第2工程: 加工費

月初 10,400 円 (40)	完成 (1,440)
当投 328,560 円 (1,480)	月末 ⑤ (80)

→ 「平均法」なので、 $\text{合計金額 } 338,960 \text{ 円} \times \text{月末 } (80) \div \text{合計換算量 } (1,520) = 17,840 \text{ 円}$

@ 2点 × 4 = 8点

仕掛品		(単位: 円)	
月初有高	210,660	製品 H (	1,440,000 ⑥)
原料費	918,000	製品 T (	296,400 ⑦)
加工費 (	832,620 ⑨)	月末有高 (	224,880 ⑧)
	( 1,961,280 )		( 1,961,280 )

⑥  $1,118,880 \text{ 円} + 321,120 \text{ 円} = 1,440,000 \text{ 円}$  (第2工完成品)

⑦  $@780 \text{ 円/kg} \times 380\text{kg} = 296,400 \text{ 円}$

⑧ ① + ② + ④ + ⑤ = 224,880 円

⑨  $504,060 \text{ 円} + 328,560 \text{ 円} = 832,620 \text{ 円}$

12 @4点×5=20点

【総合原価計算の論点】

1 材料の投入

原料 X は第 1 工程の始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

原料 Y は第 2 工程の始点投入…「数量」で月末仕掛品を計算

※ 第 2 工程では、前工程費も「数量」で月末仕掛品を計算する必要があります。

2 評価額のない正常仕損は「そのままパターン」…仕損を「そのまま」残して、当月投入を計算

第 1 工程月末仕掛品の原料費 = ① 円

第 1 工程の月末仕掛品の加工費 = ② 円

第 2 工程月末仕掛品の前工程費 = ③ 円

第 2 工程の月末仕掛品の加工費 = ④ 円

第 2 工程完成品総合原価 = ⑤ 円

①

第 1 工程: 原料 X (始点投入)

月初 60,000 円 100	完成 2,300
当投 1,940,000 円 2,400	減損 50
	月末 ① 150

→ 「平均法」なので、合計金額 2,000,000 円 × 月末 150 ÷ 合計数量 2,500 = 120,000 円

②

## 第1工程: 加工費

月初 80,000 円 (50)	完成  (2,300)
当投 3,800,000 円 (2,375)	減損  (50)
	月末 ② (75)

→ 「平均法」なので、合計金額 3,880,000 円 × 月末 (75) ÷ 合計換算量 (2,425) = 120,000 円  
 まず、工程別総合原価計算特有の論点である、第1工程完成品のすべてが第2工程へ投入されているか  
 (半製品がないか)を確認します。

次に、第1工程の完成品原価を以下の計算式で求めます。

$$\text{月初 (60,000 円 + 80,000 円) + 当投 (1,940,000 円 + 3,800,000 円) - 月末 (120,000 円 + 120,000) 円} \\ = 5,640,000 \text{ 円}$$

③ 第2工程の前工程費は「数量」で月末仕掛品を計算します。

## 第2工程: 前工程費 (始点投入)

月初 600,000 円 200	完成 5,990,400 円 2,400
当投 5,640,000 円 2,300	月末 ③ 100

→ 「平均法」なので、合計金額 6,240,000 円 × 月末 100 ÷ 合計数量 2,500 = 249,600 円

④ 第2工程の加工費は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

## 第2工程: 加工費

月初 127,000 円 (100)	完成 2,304,000 円 (2,400)
当投 2,225,000 円 (2,350)	月末 ⑤ (50)

→ 「平均法」なので、合計金額 2,352,000 円 × 月末 (50) ÷ 合計換算量 (2,450) = 48,000 円

⑤ 第2工程の原料Yは「数量」で月末仕掛品を計算します。

第2工程: 原料Y (始点投入)

月初 80,000 円 200	完成 1,152,000 円 2,400
当投 1,120,000 円 2,300	月末 48,000 円 100

→ 「平均法」なので、合計金額 1,200,000 円 × 月末 100 ÷ 合計数量 2,500 = 48,000 円

→ ③~⑤の BOX より完成品原価を集計します。

$$5,990,400 \text{ 円} + 2,304,000 \text{ 円} + 1,152,000 \text{ 円} = 9,446,400 \text{ 円}$$

13 @2点×10=20点

問題文「第1工程と第2工程」という記載がありますが、これまで学習されてきた、一般的な工程別総合原価計算に部門別計算の論点を含まれた問題です。

製造間接費－第1工程				製造間接費－第2工程			
諸口	150,000	仕掛品－第1工程	(200,000)①	諸口	116,000	仕掛品－第2工程	(150,000)②
製造間接費－動力部門	(60,000)③	配賦差異	(10,000)	製造間接費－動力部門	(40,000)④	配賦差異	(6,000)
	(210,000)		(210,000)		(156,000)		(156,000)
仕掛品－第1工程				仕掛品－第2工程			
材料	120,000	仕掛品－第2工程	(420,000)⑥	仕掛品－第1工程	(420,000)⑤	製品	(738,000)⑪
賃金	(100,000)⑨			賃金	230,000	月末有高	(62,000)⑩
製造間接費－第1工程	(200,000)①			製造間接費－第2工程	(150,000)②		
	(420,000)⑧		(420,000)⑦		800,000		800,000

① @1,000円/時間×200時間=200,000円

② @600円/時間×250時間=150,000円

③ 100,000円×60%=60,000円

④ 100,000円×40%=40,000円

⑤ 800,000円－230,000円－②=420,000円

※ ⑤をもとに⑥～⑧の順番に埋めます。

⑨ ⑧－120,000円－①=100,000円

⑩・⑪ 仕掛品－第1工程（前工程費）は「数量」で月末仕掛品を計算します。

前工程費（始点投入）

月初	完成
—	378,000円⑪-1
	1,800
当投	月末
<b>420,000円</b>	42,000円⑩-1
2,000	200

→ 当投 **420,000円** × 月末 200 ÷ 当投 **2,000** = 42,000円

※ 月末仕掛品の計算について、「先入先出法」または「平均法」の指示はありませんが、月初仕掛品がないので、「先入先出法」のように求めます。

加工費（賃金と製造間接費－第2工程）は「換算量」で月末仕掛品を計算します。

第1工程: 加工費

月初 —	完成 360,000 円⑩-2 (1,800)
当投 <b>380,000 円</b> (1,900)	月末 20,000 円⑩-2 (100)

→ 当投 **380,000 円** × 月末 (100) ÷ 当投 **(1,900)** = 20,000 円